



だいぶつ ^{まる} 大仏のかみはなぜ丸く、くりくりなの

ぶつぞう つく 仏像が作られるようになったころ

ぶつぞう あたま み ^{まる}
仏像の頭を見ると、丸く、くりくりのようなもの、あるいは、いぼいぼのようなものがくっついているように見えますね。パンチパーマみたい、と言っている人もいます。どちらにしても、見なれないものですね。

ぶつぞう ^{しゃが} ^{すがた} ^{ちょうこく}
仏像というのは、お釈迦さまの姿を彫刻したものです。

せいきこうはん つく ^{はじ} ^{ぶつぞう} ^{しぜん} ^{がた} ^し
1世紀後半に作り始められたころの仏像は、もっと自然なかみ型をしていたようです。自然なウェーブがかかったながあたま ^{うえ} ^{あたま}
うな、巻き貝の形をしたかみ型をしていました。

ところが、せいきこうはん ^{ぶつぞう} ^{まる} ^{かたち} ^{へんか}
ところが、3世紀後半になると、仏像のかみは丸く、くりくりした形に変化しています。

いだい ^{じんぶつ} ^{あらわ} 偉大な人物を表すもの

じん ^{いだい} ^{じんぶつ} ^{すく} ^{じんぶつ} ^{にんげん} ^{とくべつ} ^{すがた}
インド人には、偉大な人物、優れた人物は、われわれ人間とちがった特別な姿をしているものだと ^{かんが} ^{かた}
かんが ^{かた} ^{ぶつぞう} ^{つく} ^{とくべつ} ^{すがた} ^{かたち}
考えられ、その中に丸く、くりくりのかみの形が入っていたのだろう、といわれています。

それいらい、ぶつぞう ^{まる} ^{かたち}
それいらい、仏像のかみはあのように丸く、くりくりのような形になったのです。

(監修・青木 国夫)

